

① 食品ロス削減・生ごみ資源化の推進

<事例紹介 1>

「地域でつなぐ資源循環の輪
～米袋コンポストとウイスキー副産物活用～」

福島県磐梯町

町民課

ネイチャーポジティブ戦略推進係 主査 小檜山 貴志

ネイチャーポジティブ推進ディレクター 大嶋 伸章

令和8年度 東北地方資源循環自治体フォーラム

地域でつなぐ資源循環の輪

～ 米袋コンポスト ～

自分たちの子や孫たちが暮らし続けたい



町民課
ネイチャーポジティブ戦
略推進係

小檜山 貴志



主催: 環境省 / 環境省東北地方環境事務所 / 福島県 / 3R・資源循環推進フォーラム

OUR TOWN

磐梯町について

山

磐梯山のふもと

会津地方北東部、磐梯山や周辺の山々の南西に位置

水

名水に恵まれた町

「昭和の名水百選」に選ばれた磐梯西山麓湧水群を有する、水資源の豊かな土地

米

米づくりの盛んな地域

山々の伏流水で育つ米・そば・りんごなどが特産
最近では若手農業者が増え、バリエーションが豊かに

森

町域の約**64%**が森林

磐梯朝日国立公園を含む豊かな自然環境

資源循環に取り組むまでの経過

背景 ①

ごみ焼却施設の更新整備

令和8年3月稼働の新ごみ焼却施設の整備にあたり、平成30年度当初、将来の人口減少や建設費増加等を踏まえ、施設のコンパクト化が求められました。

可燃ごみ 約20%削減

各市町村で削減目標を設定(令和7年度までに達成)

背景 ②

ごみ排出量 県内ワースト

環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」で、1人1日あたりのごみ排出量が福島県内で最も多かったのは、次の2回でした。

令和元年度 **1,363 g/人・日**

令和3年度 **1,324 g/人・日**

県内ワースト1位(過去5年で2回)

※令和6年度実績1,222 g/人・日

古紙類やプラスチックの分別推進と共に、令和3年から生ごみコンポスト処理の普及に取り組みはじめました。

この削減目標は、家庭系資源物の分別リサイクル徹底と事業系ごみの削減により、令和7年度達成（△19.4%）しています

町の取組の経過（コンポストモニターテスト）

STEP 1 / 2

令和3年～令和4年

ダンボール式・トートバッグ式

メリット

調理くず・食べ残し・調理油も投入可。2次発酵まで同容器で完結し、においも少なめ

デメリット

食べ残しの塩分、ダンボールは繰り返し使えず、トートバッグは基材コストが高い

コスト

1個 約5～6千円



令和4年

バケツ式(EMボカシ)

メリット

液肥が取れ、容器は繰り返し使用可能

デメリット

二次発酵に生ごみを畑へ埋めて1ヶ月待つ必要があり、においも漬物のようなにおいでやや強め

コスト

1個 約3千円(+ボカシ材1袋1千円)



課題

- イニシャルコスト
- 置き場所の確保
- 二次発酵の手間
- たい肥の使い途がないと取り組むことができない

- ランニングコスト
- においや虫の発生
- 堆肥品質のバラつき

令和5・6年度の転機 ― 米袋式への転換

目指す姿

将来的に町内で材料調達できる有機農法向けの、高品質な堆肥づくりを目指すことに方針転換。
※高品質な有機農業用肥料等は高額のため、有機農業の普及推進と生産者を後押しする仕組みを目指す
ごみの減量から、資源循環に視点を切り替えて取り組むこととした。

判断の背景

試したコンポストのたい肥は、生産者向けの高品質な堆肥として使うことはできないと判断。
また、モニターテストの結果、リピート率が大変低く、事業の継続は難しいと判断したため、
住民が継続しやすい仕組み作りについても、検討していくこととなった。

人材育成

地域おこし協力隊員を三重県・橋本力男氏の育成講座へ派遣し、町の堆肥技術者として育成。
コンポストの普及を推進するには、住民へ説明・配布・運用について、協力してくれる人材の育成

容器の選定

現在コンポストの普及を進める団体において、容器として何が適しているのか通気性・コスト・使いやすさなどを比較する実験を重ね、最終的に「米袋」にたどりついた。
※現在では、家族の人数が多く生ごみの排出量も多い家庭用の大容量型のコンポストも試験運用を進めている。

HOW IT WORKS

米袋コンポストの基本的な仕組み

1

米袋を用意

新品の米袋を容器として準備材料：米袋2枚
洗濯ネット2枚
床材



2

床材を底に敷く (基材)

堆肥技術者が製造した米ぬかや落ち葉などを材料とした発酵を助ける床材を敷く



3

生ごみを投入

生ごみを入れ、その上に床材をふりかけ、かき混ぜずにミルフィーユ上に重ねていく



4

エコポスト に持ち込み

米袋がいっぱいになる前に、袋などに移し替えて、町回収拠点に持ち込む。



5

新しい床材 を持ち帰る

使用済み床材（生ごみ）を捨て、新しい床材を持ち帰る（無人利用）※LINEで連絡



WHAT IS ECOPOST

エコポストについて



CURRENT STATUS

現在の取組状況

コンポスト取組の継続者数

約30世帯

1160世帯のうち

200世帯以上の方が話を聞き、米袋コンポストのキットを受け取りましたが、エコポストの無人利用に登録して継続されている方は全世帯の2.5%ほどです

- 生ごみのコンポスト処理自体が、ハードルが高い
- 生ごみのコンポスト処理に結びつける入り口を増やせると良いのではないかな？
- 資源循環を目指す先には農業との関連が不可欠。体験できる場を提供できると、生ごみの堆肥化に関心を持ってくれる人がいるのではないかな。この発想から、令和8年度に「資源循環サツマイモ畑の会」を始めました。

CASE STUDY

資源循環サツマイモ畑の会

米袋コンポストの堆肥を活かし、住民とサツマイモを育てる令和8年度スタートの企画。植え付けから収穫・芋煮会まで、資源循環の輪を地域で“体験”できる場を目指していきます。



磐梯町 資源循環の輪～米袋コンポスト～

8 / 11

THE CIRCLE

地域でつなぐ資源循環の輪



- ・ ごみの減量
- ・ 地域資源の新たな活用
- ・ 資源循環意識の向上
- ・ 地域のつながり

磐梯町 資源循環の輪～米袋コンポスト～

9 / 11

今後に向けた課題

1

参加の入り口を増やす

エコポストの無人利用ができる登録会員は約30世帯。体験を通じて関心を持ってもらえるよう、サツマイモ畑の会に力を入れつつ、新たな取り組みについても考えていきたい。

2

継続を支える体制づくり

コンポストは、ハードルが高い。取り組み始めて理解が追いつかないうちにデメリットを感じてしまうと、思っていたのと違うなどと最終的に辞める方向に進んでしまうので、説明会に来られた方に対して、アフターフォローにも力を入れていきたい。

3

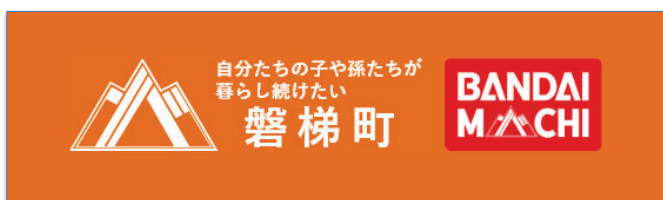
堆肥場の整備

現在の堆肥場は仮設であるため、今後、取組を進めていく農林漁業を核とした循環経済先導地域づくりの一環として、堆肥場の整備も進めていきたい。

令和 8 年度東北地方資源循環自治体フォーラム

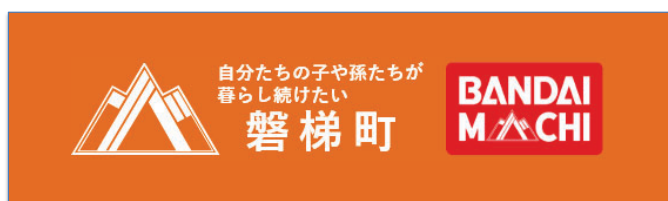
地域でつなぐ資源循環の輪 ～ウイスキー副産物活用～

令和 8 年 1 0 月 7 日



磐梯町の紹介

豊かな自然と名水: 町の約70%が森林で、磐梯朝日国立公園にも含まれています。雪解け水などの美しい水に恵まれ、「龍ヶ沢湧水」をはじめとする磐梯西山麓湧水群は日本名水100選に選ばれています。



龍ヶ沢湧水



循環商品 ウイスキーにあうチーズ 会津のべこの乳ちー

販売：道の駅ばんだい、ゆっ蔵（天鏡蒸溜所直売所）



再資源化対象

ドラフ（麦芽かす）



ポットエール（1次蒸溜残渣液）



当初プラン

近郊で循環型のスキーム構築（脱CO₂、持続可能な仕組みづくり）
2022年から準備、2026年で完成



副産物がつなぐ官民6者連携のリサイクルループ

天鏡蒸溜所

ウイスキー製造
副産物提供



中川牧場

乳牛への給餌
高品質生乳の搾乳



会津中央乳業

循環型チーズ
「べこの乳ちー」製造



ガイアドリーム

企画・スキーム構築・運営サポート

磐梯町役場

ネイチャーポジティブ宣言
行政後押し・地域共生圏

一社 ばんだい振興公社

道の駅・店舗での販売
ふるさと納税展開



GAEA DREAM

株式会社ガイアドリーム



自分たちの子や孫たちが
暮らし続けたい

磐梯町

【給餌設備のフロー図解】ポットエール(蒸溜廃液)給餌システムの構成

天鏡蒸溜所 TENKYO DISTILLERY

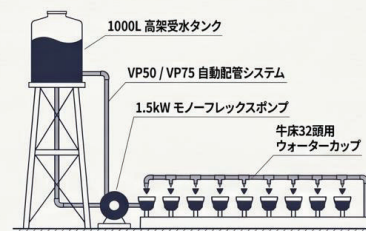


4km/片道

中川牧場



ポットエール給餌システムの構造



環境・経済効果

100% 再資源化

年間 4,000 トン
未利用資源の全量循環

- ・ 麦芽粕：日量 約400kg
- ・ ポットエール：
日量 約600L
- ・ さ飼料利用実績が
多くないポットエールを
100%地元で飼料利用

経済効果

産廃費 約600万円 削減
双方にメリットのある持
続的経営

- ・ 蒸溜所：高額な
産廃処理・運搬コスト
を削減
- ・ 酪農家：飼料価格高騰
の中で安価な栄養源
確保
- ・ 地域内経済循環の確立

脱CO2

地産地消・ゼロエミ
環境負荷の低減とネイチャ
ーポジティブ

- ・ 町内近郊（最短距離）
輸送による物流CO2
削減（片道約4km、
産廃処理だと片道
約50km）
- ・ ネイチャーポジティブ
の具体化

課題

【当初の課題】

- ①ドラフ、ポットエールの運搬、給餌方法
- ②ドラフの品質(含水率調整、酸化防止)
- ③ポットエールの飼料利用量

【今後の課題】

- ①事業拡大への対応
- ②給餌設備の衛生管理、設備更新

磐梯町 ウイスキー事業 サーキュラー事業 完成形へ

